

令和7年度 学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員）

このアンケートは、学校の教育目標「人や自然と和し、自分を磨き、夢を結ぶ生徒の育成」の達成状況について、令和7年7月と12月に行いました。

各設問に対して、4＝そう思う、3＝ややそう思う、2＝あまりそう思わない、1＝そう思わない、として回答しています。結果は令和6年度との比較になります。

分類	番号	評価項目	生徒	保護者	教職員
組織運営	1	学校に行くことを楽しみにしている。	3.4→3.6	3.4→3.5	
	2	目標を持って学校生活を送っている。	3.2→3.3	3.2→3.1	
	3	学校の教育目標の具現化に向けて組織的に取り組んでいる。			3.4→3.5
	4	危機管理意識を持って安全・安心な学校づくりに努めている。			3.6→3.6
	5	報告・連絡・相談に心掛け、連携・協力でできている。			3.3→3.7
確かな学力	6	ねらいを明確にし、基礎・基本を大切にしたいと分かる授業に努めている。	3.6→3.8	3.4→3.5	3.5→3.8
	7	生徒が意欲的に取り組む授業づくりをしている。	3.2→3.4	3.1→3.2	3.4→3.5
	8	生徒を公平に評価している。	3.4→3.5	3.4→3.5	3.5→3.5
	9	目標と指導と評価の一体化を目指した授業改善に取り組んでいる。			3.3→3.5
	10	生徒は家庭学習に毎日取り組んでいる。	2.9→3.1	2.8→2.5	
生徒指導	11	挨拶がよくできている。	3.2→3.4	3.3→3.5	3.2→3.3
	12	教職員は、生徒のことをよく理解していると思っている。	3.2→3.4	3.5→3.5	
	13	生徒や保護者の悩みや願いに適切に対応できている。	3.5→3.6	3.4→3.4	3.6→3.3
	14	いじめ等のない学校づくり・学級づくりに取り組んでいる。	3.4→3.6	3.5→3.4	3.6→3.5
	15	生徒指導に対する教職員の意識統一が図られている。			3.4→3.2
	16	生徒は朝ごはんを毎日食べている。	3.7→3.8	3.6→3.8	
特別活動等	17	校内の環境美化にしっかりと取り組んでいる。	3.6→3.7	3.7→3.7	3.4→3.3
	18	部活動は、生徒にとって充実している。	3.5→3.6	3.7→3.5	3.5→3.5
	19	生徒会活動や委員会活動は、充実している。	3.6→3.7	3.5→3.5	2.9→3.1
	20	運動会や文化祭などの学校行事は、生徒にとって充実している。	3.9→4.0	3.7→3.7	3.7→3.6
	21	主体的に進路を選択する能力や態度の育成に努めている。	3.0→3.1	3.0→2.8	3.3→3.3
	22	人の生き方について考えさせ、豊かな心を育てようとしている。			3.5→3.4
連携	23	学校は家庭への連絡や情報提供を積極的に行っている。	3.2→3.2	3.5→3.5	3.9→3.7
	24	小中学校の連携は、効果的に行われている。			3.3→3.5

1 学校評価アンケートについて

- 「組織運営」について、生徒・保護者・教職員共に肯定的な意見が多かったが、学年間ではつきが見られた。教職員で分析を行い、共通理解の下、全校体制で個に応じた声掛けやきめ細かな支援を実施している。
- 「確かな学力」について、今年度は、主にE I L Sを活用して全学年で実施した10分間集中テストやE－A C T、3年生を対象とした全国学力学習状況調査、2年生を対象とした愛媛県学力診断調査等の結果を分析し、授業改善に活用した。また、「家庭学習の習慣化」は、本校の最も重要な課題となっている。今後も各教科の教員がE I L Sで配信した課題を家庭学習で活用したり、書いて覚える課題を出したりして、家庭学習の習慣化と基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせたい。
- 「生徒指導」では、毎週末行っている生徒指導委員会やジブンミカタプログラム、生徒アンケートを活用した情報共有や、日頃の生徒の様子を観察などから積極的に教育相談を行い、不安を解消するよう働き掛けている。また、管理職を中心に教職員や非常勤講師（不登校等対策）や不登校対策支援員と連携を図り、不登校傾向等の生徒やその保護者へ個に応じたきめ細かな対応ができた。今後も教職員の意識統一を図り、生徒や保護者の困りごとに対して、全校体制

で個に応じた支援ができるように取り組んでいきたい。

- (4) 「特別活動等」では、地域や保護者の協力により、職場体験学習や伝統芸能継承活動、少年式後の餅つき等で充実した活動を行うことで、全体的に肯定的な評価が多くなっている。今後も今治市モデルのふるさとキャリア教育や職場体験学習、福祉体験学習などをさらに充実させ、自分の進路について主体的に考え、実現に向けて行動することのできる生徒の育成に努めたい。

2 主な取組の課題と改善

3年生が毎年「総合的な学習の時間」で行う伝統芸能継承活動では、獅子舞は地域の保存会から講師を迎え、獅子頭の扱い方や油単のさばき方等を指導してもらっている。また、龍岡万歳は上級生から引き継いだ動画を基に練習し、地域の方には衣装の着付けの仕方を指導してもらっている。龍岡万歳は現在、玉川中学校のみで伝統が受け継がれており、玉川公民館で地域の高齢者の方々に披露した際には、好評を得た。このような取組により、伝統文化継承の一翼を担い、地域の風土や文化を受け継いでいこうとする気持ちを高めることができた。今後、生徒数の減少により、一学年での実施が難しくなってくることが予想されるが、学校運営協議会とも連携を図り、持続可能な伝統芸能継承活動の取組方法を検討したい。

夏季休業中にフィールドワークを計画し、生徒6名、引率教員1名が、今治南高校、今治北高校、今治工業高校、今治東中等教育学校、玉川支所地域教育課、うずしお会と、長島愛生園や渋染一揆記念館を訪問した。参加生徒は、ハンセン病の治療法の確立後も隔離政策が継続された人権侵害や、多くの元患者へ根強く残る偏見や差別に対して強い疑問を持った。差別の不当性や誤りに気付き、正しい知識を身に付け、差別解消に向けて自分に何ができるか考え、行動する実践力を身に付けさせることができた。また、人権集会で報告会を実施し、学校全体で人権尊重の意識の涵養を図った。

不登校や不登校傾向にある生徒への対応が引き続き課題であるが、非常勤講師(不登校等対策)や不登校対策支援員等と連携を図り、生徒一人一人の興味・関心を高めるような作業学習を実施した。サポートルーム利用生徒が声を掛け合って作業し、お互いの個性の理解とコミュニケーションスキルの向上につなげることができた。今年度も、外部講師によるソーシャルスキルトレーニングを実施し、場面に応じた対話を学び、良好な人間関係の構築に取り組むことができた。また、登校が難しい生徒に対して、1人1台端末を活用した学習支援を継続して行うことで、定期テストに取り組んだり、学校行事に参加したりすることができる生徒が増加した。また、定期的に家庭訪問や保護者懇談会を実施することで、生徒、保護者との信頼関係の構築を図ることができた。今後も、生徒一人一人に寄り添ったきめ細かな支援を実施していくために、校内ケース会議の充実を図るなど、全校で支援する体制の充実を図っていきたい。